

藤元議員 それでは、3点について質問させていただきます。最初に観光資源としての千年サンゴの活用についてであります。この先、牟岐町はどうなってしまうのだろうと心配されている住民のみなさんの声をよくお聞きします。本町の人口は、かつて1万人ほどあったこともありましたが、毎年のように減少し、とうとう本年9月1日現在、3,604人となりました。そして、そのうち1,182人、人口の32.8%は75歳以上の高齢者であります。また、少子化傾向も深刻であり、昨年の出生は、なんと僅か4人です。また、かつては漁師町と呼ばれ活気のある町でしたが、1975年(昭和50年)頃を境に漁獲量、水揚げ額とも年々減少し、とうとう古牟岐で行われていた稚貝の養殖場も廃止されました。農業においても、耕作放棄地が増え、もう何年も新規就農者ゼロの状況が続いており、農業・農村の多面的機能が果たせなくなりつつあります。農家からは、「今の機械が壊れたら農業はやめた」との声が聞こえてきます。また、人口減とともに近くにあった商店が次々に姿を消しています。もちろん、人口減少、少子高齢化、地場産業の衰退などというのは、牟岐町だけではなく、全国の自治体が抱えている共通の問題でありますので、各自治体で様々な施策が取り組まれています。本町におきましても、牟岐町総合戦略に基づき、「牟岐町への新しい人の流れをつくる」、「牟岐町で安心して働ける場をつくり、これを支える人材をつくる」など、4つの基本目標を掲げ、様々な取り組みをしているところであります。コロナ感染の影響が大きい中でも、農林水産業への支援、大学生の協力を得ての新たな商品開発、観光協会の体制強化など行政の努力により一定の成果は上がっています。ただ、全体としては現状を大きく好転させるという状況にはなっていません。それに加えて、現在、国道55号線のバイパス工事が行われていますが、これが完成すれば、本町経済にとっては、大きなマイナスになることは間違いありません。国交省の資料によりますと、バイパス工事完成後には、バイパス道路の一日の交通量は、5,600台。そして、従来の国道55号線は500台と予想されています。ほとんどの車は、バイパス道路を走るということであり、バイパス道路完成で「命の道」としての役割は果たせるかも知れませんが、その反面、現国道沿いのコンビニ、給油所、食堂などは、たちまち大きな影響を受けることは明らかであります。したがって、近い将来のことを考えてみましても牟岐町の魅力アップを図り定住者、関係人口・交流人口を増やすことを今まで以上に真剣に考えなければなりません。そこでお伺いします。先ほども述べました牟岐町総合戦略基本目標2の中で、「千年サンゴの保全とともに観光振興等への活用を図る」との目標を掲げていますが、1年間の事業検証結果によれば、サンゴの保全活動は、関係者のご努力で続けられていますが、観光資源としての活用は、ほとんどされていないというのが現状であ

ります。ご承知のように、大島の千年サンゴは、高さ約9 m、外周約30 mのハマコブサンゴでありまして、日本では最大級、最長寿のサンゴと言われ、その大きさ、年齢、そして、その形がクリスマスツリーの形をしているというのも世界的に珍しいサンゴと言われています。こんな貴重なサンゴを大島湾に静かに寝かしておくのは余りにも勿体ないと思います。大いに観光資源として活用すべきではないでしょうか。上手く活用できれば世界中から人が集まる観光地になる可能性があるとの声もお聞きします。ただ、以前、モラスコむぎを拠点に漁協、民間業者などが中心となりスキューバダイビング事業を始めましたが、結果的には、経営悪化のため2018（平成30）年3月に民間団体も撤退してしまったという現実があります。したがって、事業再開には慎重にならざるを得ないと思いますが、先ほども述べたように、世界的にも注目される観光資源には間違いありません。過去の経験・教訓をしっかりと検証し、千年サンゴを本町の活性化に生かすべく本腰を入れるべきだと思います。見解を伺いし、次の質問に移ります。次に、職員の労務管理について伺います。自治体の仕事は、住民福祉の増進。そして、職員のみなさんは、全体の奉仕者として住民のみなさんと直接かかわり、その仕事をいただいています。管理職の方々には、部下の職員がその仕事がしっかりできるよう指導・援助するのが大事な役割ということになります。長年議員をやらせていただいで、最近感じることですが、以前は、定年退職者を補充する程度の職員採用で、年に一人、二人採用するというのが常であったのですが、新たな課の創設ということもあったのかもしれませんが、最近職員の採用が増えていると感じています。年度初めに採用された職員さんと私たち議員との面談が毎回あるのですが、普段会うことは滅多にないので、名刺や顔を覚えることはできないですけど、各職場で頑張っていたいただいで思っていました。ところが、おそらくもっとおいでだと思いますが、私が知っているだけで、ここ数年の間に入職したばかりの若い職員3人が退職されています。いったい職場で何が起きているのだろうというのが今回、この質問させていただく理由であります。新たに採用された職員の中には、本町出身ではなく他町や県外から来られた方もおいでます。牟岐町民の一人として、牟岐町を職場として選んでいただいたことを嬉しく思いますし、役場職員として生きがいを持って働いていただいたらと思っていました。それだけに、若い職員の短期間での退職というのは残念でなりません。もちろん体調や、家庭の都合など退職の理由は様々あるのだと思いますが、途中退職者を出すと、職場でも一から職員を育てなければならないことになり、牟岐町にとっても大きな損失であります。職員のみなさんが、仕事に誇りと生きがいを感じ働いてもらえるような職場にしなければなりません。それが、結果的には牟岐町の住民のみなさんの福祉の増進につなが

ってまいります。そこでお伺いします。職員が新たに採用されますと、「広報むぎ」で写真入りで紹介されますし、先ほど述べたように私たち議員との面談がありますので、おおよその数字は把握していますが、途中採用の場合もありますので、性格にはつかめていません。私の認識では、令和元年度から本年度までに正職員24人が新規採用されたと思っていますが、改めて過去5年間の職員採用数と定年退職以外の退職者数についてお伺いします。あわせて、その退職理由についてお伺いします。そして、先ほども述べましたように、職員のみなさんが、仕事に誇りを持ち、生きがいを感じながら働けるような職場づくりは、結果的に本町住民の福祉の増進につながっていきます。今後、若い職員の退職者を出さないための方策をどのように考えているのかをお伺いし、次の質問に移ります。次に、個人情報保護の立場から、自衛隊への青年の名簿の閲覧・提出についてお伺いします。町民のみなさんはもちろんですが、議員のみなさんも行政による自衛隊への本町青年の個人情報提供が行われていることは知らない方が多いと思います。これは、「都道府県知事及び市町村長は政令で定めるところにより、自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務の一部を行う」とする、自衛隊法第97条の第一項。「防衛大臣は自衛官又は自衛官候補生の募集に関し必要があると認めるときは、都道府県知事又は、市町村長に対し、必要な報告又は資料の提出を求めることができる」とする自衛隊法施行第120条第一項に基づき行われているものであります。本町においても、高校、大学卒業生の18歳、22歳の氏名、住所、生年月日、性別の住民基本台帳法でいう4情報を閲覧させています。他にも、本町ホームページ、「広報むぎ」において行っている自衛官募集の案内についても、この法令に基づいて行われているものであります。ただ、本年3月議会で、従来の牟岐町個人情報保護条例が廃止され、新たに個人情報保護法施行条例が制定されましたが、その中でも町の個人情報保護の取り扱いについて厳しく定められています。今年4月の町長選挙・町議選挙で、選挙はがきを出す必要から有権者名簿を見せてもらった方がおいでるかも知れません。実は、私も他のメンバーと一緒に見せてもらった一人ですが、参加したメンバー全ての住所・氏名の提出を求められました。そして、今の時代にコピーぐらいさせてほしいと思いましたが、そんなことは許されておらず、一人ひとり手書きで書き写しました。そして書き写した名簿は、全てコピーをして、控えとして職員に渡しました。さらに、選挙が終われば、その名簿は処分するよう言われました。それだけ個人情報保護の取り組みをしているにも関わらず、他の機関には簡単に情報を提供するというのは問題があると思わざるを得ません。先に紹介させていただいた自衛隊法施行令も「報告又は資料の提出を求めることができる」となっていて、けっして自治体に強制できるものではありません。そこでお伺いし

ます。本町の場合、以前から対象者の名簿は閲覧させていると認識していますが、改めて、現在の対応についてお伺いします。次に、単に閲覧だけではなしに、行政自らが名簿を提出するなどということはしてはならないと思いますが、もし提出するという事にするなら、本人の意思を尊重する意味で、最低限、除外申請制度創設とセットでなければならないと思いますが、見解を伺い質問を終わります。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 藤元議員の「千年サンゴの活用について」のご質問にお答えいたします。現在、千年サンゴにつきましては、千年サンゴと生きるまちづくり協議会におきまして、千年サンゴ周辺を起点とした生物等の調査やサンゴに係る経年変化を調査する生物環境調査やオニヒトデなどのサンゴ食害生物の駆除するサンゴ保全活動を実施しています。また、環境学習・イベントの開催としまして、小学校へのお出前講座・地域特有の生物多様性の魅力等を知り、海洋環境保全の大切さへの理解を深める機会として、シュノーケリング体験教室を開催しています。千年サンゴを活用した地域活性化やPRの実施として、町内外におけるイベント等におきまして、世界的にも希少な郷土の自然財産である「千年サンゴ」とその保全活動についてPR活動を展開するとともに、「千年サンゴ」サポーターを募集し、この活動への理解と支援の輪の拡大を図っています。引き続き、千年サンゴの活用につきましては、徳島県・千年サンゴと生きるまちづくり協議会などと協力・連携し、保全活動や魅力発信に努めてまいります。また、牟岐町の誇れる自然財産であるコブハマサンゴ「千年サンゴ」をシンボルとする豊かな自然を守り、次世代に継承するため、地元住民・団体等が一層の連携体制のもと、それぞれの役割に応じた持続的な環境保全活動を推進するとともに、自然を活かした牟岐の魅力を創出することで地域活性化につなげて参りたいと思っています。次に、職員の労務管理に関するご質問についてお答えします。まず、令和元年からの新規職員採用者数ですが、令和元年度から令和5年度8月までの4年と5か月の間で、合計22名の職員を新規採用しています。職種による内訳は、一般事務14名、栄養士4名、保育士3名、土木技師が1名です。次に、退職者数ですが、同期間で合計15名が退職をしています。退職の理由

はとのご質問ですが、15名の退職内容の内訳は、定年退職が4名、満45歳以上が利用できる早期退職制度を利用した応募認定退職が2名、自己都合による普通退職が9名で、内、在職5年以内の若手職員の退職が6名と多い状況です。若手職員の退職理由ですが、仕事量や人間関係、業務環境に対しての不满による退職ではなく、もっと自分に合った仕事や環境を求めて退職するケースが多いと把握をしています。近年、若者が就職の際、一番に求めるものは、ワークライフバランスが可能な仕事であるかどうかであるといわれています。また、就職先で退職まで勤めるといった永年雇用の考え方を持つ若者が少なくなってきており、ある一定のスキルを身に着けるとスキルアップを目指して転職するといったケースが多くなってきているようです。また、一つの会社ではなく副業的に多数の会社を掛け持ちで勤務するケースもあり、このような社会の流れが、退職する若者が増加している理由の一端ではないかと思われます。次に「生きがいを持って働いてもらうための方策は」のご質問ですが。若手職員の早期離脱を防止し定着率を上げる必要があるとの認識をしています。そのために、よりいっそう離職理由の把握に努め、改善すべきところはきちんと改善し、役場でのコミュニケーションの活性化のため、定期的な面談を行い、職員それぞれが公私ともに相談できる環境づくりに努めることが大切であると考えています。また、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、教養、地域活動などの「仕事以外の生活」との調和を取り、その両方を充実させることができる働き方が可能な職場環境づくりに努めてまいりたいと思います。以上です。自衛隊への名簿閲覧、提出については、担当課長より答弁させていただきます。よろしくお願ひします。

**喜田議長** 海部住民福祉課長。

(海部住民福祉課長 登壇)

**海部住民福祉課長** 私から、自衛隊への名簿提出・閲覧についてのご質問にお答えさせていただきます。自衛隊への名簿の提出ですが、例年防衛大臣より「募集事務の一部広報宣伝活動」、また「募集対象者情報の提供」について依頼文章が届きます。その後、自衛隊徳島地方協力本部長より「募集対象者情報の提出」依頼があり、阿南地域事務所

より住民基本台帳の一部の写しの閲覧請求があります。閲覧情報は、その年度内に22歳に達する住民及び18歳に達する住民の氏名、生年月日、男女の別、住所の4情報となっています。請求事由は自衛官候補生などに関する募集案内の送付等となっています。このことにより、本町では対象者のみを抽出後、閲覧していただき、記載していただくことで実施してまいりました。徳島県内では全市町村が依頼に協力しており、他の自治体では紙媒体でお渡ししているところもあります。県南部5市町でも本町と1自治体を除き紙媒体で提供しています。このことから今後も同様の対応で実施するか、または他の自治体の紙媒体での提供かを検討していきたいと考えています。次に、承諾なしに提供に問題があるとのことですが、ご存知のとおり「自衛隊法第120条に防衛大臣は、自衛官又は自衛官候補生の募集に関し必要があると認めるときは、都道府県知事又は市町村長に対し、必要な報告又は資料の提出を求めることができる。」とされています。議員ご指摘の個人の意思を尊重することも現在では重大であります。このことにつきましては、県内又はその他の自治体でこの事例について確認し、今後の検討課題とさせていただきます。以上です。よろしくお願いいたします。

**喜田議長** 藤元議員。

**藤元議員** 最初の千年サンゴの件につきましては、保全活動もやって、いろんな学習活動に役立てていると、今後も活性化に役立てたいというお話でしたけど、先ほどの質問の中でお話しましたように、やっぱり今、牟岐町の状況というのは非常に悪い状況が続いていまして、人口もどんどん減るし、地場産業も駄目だというようなことで、もちろん、農林水産業、地場産業発展のために、いろんな施策を講じていかなければいけないのは事実なんですけど、やっぱりそれ以外にせつかくああいう世界的にも素晴らしい資源があるので、これはもう少し積極的に生かす必要があるのではないかと、ただ、保全活動だけでなしにね。先ほど他の議員の県にももっと要請しなさいという話がありましたけど、なかなかこれ町単独でやるというのは難しい話なので、県にもそういう観光地ができれば良いわけで、やっぱり県とももう少し連絡、協議会の事務局は県がやっているそうなので、そういうことでもう少し県の方にも力を入れてもらうということを働きかける必要があるのではないかとこのように思っています。もう少し県に働きかける

気持ちはないか、まずその質問をさせていただきます。それから、退職者、やっぱり私の思っていたより退職者は多かったということで、本当に若い人の職場、どうやって続けてもらうかということを考えていかなければいけないと思いますけど、私の、おそらく議員の皆さんもそうだと思うのですが、進路について悩むときがありますよね。どうしよう、こっちにしようか、ああしようかとか言って悩むときがあると思うのです。町の職員の場合は、公務員という形で一般職で入る場合が多いのですが、入ったら、例えば、あまり好きではないけど産業課に行かされたとか、得意の分野でないけど福祉に回されたとか、こういうことがあると思うのです。やっぱりやりたいことは力を発揮できるというのが人間ですので、やっぱり4月に人事異動がありますけど、そういうときに職員の希望を聞くとかいうようなことはできないのでしょうか。そういうことができれば、やっぱり好きなことはやりたいわけですので、全然嫌いで不得意なところに回されるより、やりたい仕事にいける方がそれは良いわけなので、全て希望が叶うということにはならないと思いますけど、そういうことを1回検討したらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。それから、3問目の最後に他町の動向を見てという話がありましたけど、これは他町がどうこうということでなしに、やっぱり自衛隊として判断できることですから、そしてその本人の同意を得ると、私はそんなのを知らせてほしくないという、これはセットで考えないといけないと思うのです。紙媒体で報告している自治体が多いと言いますが、それは要請されたから、「はい、どうぞ」ということにはならないと思います。最低限、対象者の名簿を出して良いか、これを確認してからすべきだというふうに思いますけど、その点いかがか再問します。

**喜田議長** 久産業課長。

(久産業課長 登壇)

**久産業課長** 藤元議員の千年サンゴ、徳島県と連携してもっとPR保全活動ということですが、千年サンゴと生きるまちづくり協議会の構成団体の中にも、徳島県南部総合県民局が事務局を持っていますので、引き続き協力して魅力発信とかサポーターの確保とか努めてまいりたいと思います。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 藤元議員再問の職員の希望する職種へ異動できないかということですが、私の知っている限りでは、以前、そういうこともやったことがあると認識をしています。しかしながら、議員、先ほどもおっしゃっていましたが、全員の希望を聞くわけにもいきませんので、希望が叶った職員さんはモチベーションが上がるとは思いますけど、希望が叶わなかった方にとってはモチベーションが下がり、不満の方が大きくなると思いますので、今までどおりの職員の異動につきましては、こちらの方からの指示でさせていただきたいと思っています。それと、自衛隊ですが、県内で自治体出しているということですし、やはり国防とかということも考えますと、必要であると私は認識していますので、閲覧、控えていただく方法で、海部郡相談しながら1市4町、相談しながら紙媒体も検討をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

喜田議長 藤元議員。

藤元議員 千年サンゴの件については、保全活動だけでなしに、やはり町民の漁師の方とも商売の方とか、少しでも生活が向上できるような方法を、保全活動だけでなしに、やはりもう少し強化すべきではないかということをお願いわけです。そういう点でぜひ県の方とか、先ほど答弁あったように保全活動だけでなしに、もう1歩踏み込んで牟岐町の経済発展に貢献できるような、せつかくの素晴らしい観光資源ですので、それをもう少し生かす方向で検討していただきたいというふうに思っています。それから、職員の異動については、当然管理職が決めるのですが、にしてもやっぱり、それはもちろん、さっき言われたように全体の希望は通るわけではないのですが、そういうこともやった上で決めると、それは良いことではないのかなと、少しでも職員の退職を減らす意味では、そういうこともした上で人事異動を決めるという仕組みにできれば良いのではないかというふうに思いますが、どうでしょうか。全然そんなのをする必要がな



いと思っているのですか。そこら聞きたいと思います。それから、自衛隊の件は国防ということで、これは災害時のときには頑張っていたいでいるし、ああいう自衛官になりたいということで自衛隊に入る方もおいでだと思います。それはそれで良いと思いますが、今、岸田政権は、軍事費の倍増とか敵基地攻撃能力というようなことで、5年間で43兆円防衛費に注ぎ込むというふうに言われています。これがもしそのまま実行されますと、日本は今まで専守防衛というふうにやってきましたけど、世界第3位の軍事大国になってしまうわけです。そういうことで防衛大学校を卒業しても自衛官にならない人が増えていると言っています。そういうことで、そして、憲法の改正ですね。自衛隊の現状に合わせて憲法を変えるのか、憲法に自衛隊の現状を合わせるのかと、こういうことがいま国会で大きく論議をされているわけです。憲法を変えても良いか、自衛隊を軍隊として良いかと問われると、やっぱり大きく意見が分かれるところなのです。ということでね、ただ、国防だから大事なことからということで、紙媒体にして渡すというようなことは、また、個人情報の中にもありますし、もしやるとすれば、最低限、本人に公表しても良いかとか、情報を渡しても良いか、これを尋ねた上でやるべきだということを思いますけど、その件について、再度お伺いします。

**喜田議長** 榊富町長。

(榊富町長 登壇)

**榊富町長** 藤元議員の再々問にお答えします。千年サンゴの活用につきまして、前の民間団体、漁協とでスキューバダイビング事業をしていましたが、資金難というか倒産されたようなことで、今は行われていません。そして、今、保全活動、駆除とかをしていますけど、それも漁協の許可があつてのことですので、また、千年サンゴと生きるまちづくり協議会、その中で検討をいろいろしていきたいと考えています。潜らなければ見えないところですので、そこが一番悩ましいところです。また、今後ともよろしくお願ひします。職員の希望、以前やっています。やはり希望どおりいった職員はモチベーションが上がりますけど、先ほども申しましたが、希望どおりいかない職員の方が多くなりますので、やはりここは好き嫌いあると思いますが、最初にご答弁させていただいた

ように課が嫌で辞めたというのは聞いていません。本当にスキルアップのために、私もいろいろ面談をさせていただきましたが、最終的にはスキルアップのためにということで退職されていきました。そして、自衛隊ですけど、議員が強くおっしゃられますので、選挙名簿を含め今後検討させていただきます。やはりそれを知ると嫌な町民さんもおられると思いますので、よろしくお願いします。以上です。

**喜田議長** 藤元議員。

**藤元議員** もうこれで終わりですね。もう約束の。